

IV 4つのシンボルプロジェクトの概要

IV-1 重点取組とシンボルプロジェクト

(1) シンボルプロジェクトについて

シンボルプロジェクトは、9つの重点取組ごとの戦略3「当地区の再生を多くの住民等が実感できる戦略」に基づき、下記の2つの観点から4つのプロジェクトを設定します。

①対外的に広くアピールでき、外部から人を呼び込むこと。

②住民等の視点で具体的に認知できること。

シンボルプロジェクトの設定に際しては、効果的に取組みを進める観点から、表9のとおり、個々の重点取組に対して、それぞれ固有のシンボルプロジェクトを設定するのではなく、関連する重点取組については、併せて1つのシンボルプロジェクトを設定します。

表9 重点取組とシンボルプロジェクト対照表

重点取組の名称	シンボルプロジェクト
2-1 地区の魅力情報の発信	1 地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の発信強化
1-2 ニーズの多様化に対応した公園の再整備と活用 1-3 緑のネットワーク（回廊）の形成	2 市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進
2-2 空き家対策の推進 3-1 地区内の空きスペースの有効活用 3-3 にぎわいのある商業・サービスゾーンの形成	3 空きスペース等を活用したにぎわい空間づくり
1-1 地域包括ケアシステムの構築 3-2 新たなサービス機能の誘導	4 地域包括ケアシステムの推進に寄与するスマートシニアライフ実証事業との連携
2-3 公共交通網の再整備	現時点では設定しません。

表10 重点取組とシンボルプロジェクトの関係

重点取組 \ シンボルプロジェクト	1 地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の発信強化	2 市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進	3 空きスペース等を活用したにぎわい空間づくり	4 地域包括ケアシステムの推進に寄与するスマートシニアライフ実証事業との連携
1-1 地域包括ケアシステムの構築	○	○		◎
1-2 ニーズの多様化に対応した公園の再整備と活用	○	◎	○	
1-3 緑のネットワーク（回廊）の形成	○	◎	○	
2-1 地区の魅力情報の発信	◎			
2-2 空き家対策の推進	○	○	◎	
2-3 公共交通網の再整備	○		○	○
3-1 地区内の空きスペースの有効活用	○		◎	○
3-2 新たなサービス機能の誘導	○		○	◎
3-3 にぎわいのある商業・サービスゾーンの形成	○	○	◎	○

シンボルプロジェクト1 地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の発信強化

基本方針

- ◎ 本市に密着した地域ポータルサイトとの連携により、当地区の魅力情報の発信力を効果的・効率的に強化します。

表 11 令和4年度の役割分担と取組目標

市	・（仮称）市民ライター養成講座（当地区住民等を対象）を開催する。 ・魅力情報を連携する地域ポータルサイトに適宜情報提供する等、情報発信力を強化する。
住民等	・（仮称）市民ライター養成講座を受講する等、当地区の魅力情報発信のスキルアップに取り組む。 ・「大阪狭山陽だまりお散歩暮らし」への投稿のほか、連携する地域ポータルサイトへの魅力情報提供やポータルサイト掲載店舗の利用等、地域ポータルサイトと連携した情報発信力の強化に取り組む。 ・SNSを活用したフォトコンテスト等、地域の魅力情報の発信に向けたイベントに市等との連携のもと主体的に取り組む。
事業者	・地域のイベント開催を支援するとともに、連携した広域的なイベント開催に取り組む。 ・魅力情報を事業者保有の情報発信ツールに掲載する等、情報発信の連携を図る。 ・連携する地域ポータルサイトのリンク設定や広告を掲載する等、魅力情報の発信活動に可能な協力・支援に取り組む。
課題	①地域ポータルサイトの育成 安定して情報発信の強化を図るため、良質なコンテンツの提供や積極的に閲覧して PV（ページビュー）を増やすこと、広告を掲載する等、各者が可能な範囲で地域ポータルサイトの育成に取り組むことが必要。 ②良好なコンテンツを提供するライターの育成 市職員をはじめ、推進会議やワーキングメンバー等、多くの住民等が良好なコンテンツを提供するライターとなれるよう情報発信スキルの育成が必要。

図 22 ロードマップ

主体	年度	R3（2021）	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）～
市			（仮称）市民ライター養成講座		
住民等			地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の提供、発信		
事業者			公民連携による魅力情報発信に向けたイベントの開催等		
			地域ポータルサイトのリンク設定等の連携		

図 23 地域ポータルサイトの事例



出典：大阪狭山びこ HP



出典：枚方つーしん HP

シンボルプロジェクト2 市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進

基本方針

- ◎ 市民協働・公民連携のもとで住民等が主体となった公園等を活用した地域のイベントの中で、事業者の協力を得て、広域イベントと連携し、毎年1回程度開催することをめざします。
- ・ 当地区への来訪者を増やし、緑豊かな当地区の魅力を体感できるよう地区内外の人に広く情報発信します。
- ・ 来訪者の増加を契機に、幅広い人々との交流や起業支援等公園や緑地の魅力向上に取り組みます。

表 12 令和4年度の役割分担と取組目標

市	・ 公園の施設更新等に計画的に取り組む。 ・ 公園等を活用したイベント開催に住民等や事業者と連携して取り組む。
住民等	・ 公園の維持管理等に引き続き市と協力して取り組む。 ・ 公園等を活用したイベント開催に市や事業者と連携して主体的に取り組む。
事業者	・ 市民協働・公民連携のもとで、住民等が開催する公園を活用したイベントにあわせて広域的なイベントの開催に向けて取り組む。 ・ 市民協働・公民連携のもとで、住民等が行う公園を活用したイベント等に可能な協力・支援を行う。
課題	①資金の確保 住民等が公民連携のもとで開催するイベントに要する費用を、公民それぞれから確保することが必要。 ②プロジェクトリーダーの育成 イベントの企画運営上のリーダー育成が必要。 ③担い手の確保 イベント開催には警備等多くの担い手が必要であり、市、住民等及び事業者は連携して、広く有志を募ることが必要。

図 24 ロードマップ

主体 \ 年度	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024) ~
市	公園・緑地の施設等を順次更新			
住民等	市と連携して公園ウォーキング等のイベントを開催			
事業者	公園等の維持管理への参加、協力			
	公民連携のもとで住民等が開催するイベントへの可能な協力・支援			

出典：南海電気鉄道株式会社パンフレット

シンボルプロジェクト3 空きスペース等を活用したにぎわい空間づくり

基本方針

- ◎ 空き店舗や公共空間を活用して交流空間を確保するとともに、府営住宅ストック活用計画の進捗状況を踏まえ、センター地区を含めたにぎわい空間の形成に取り組めます。

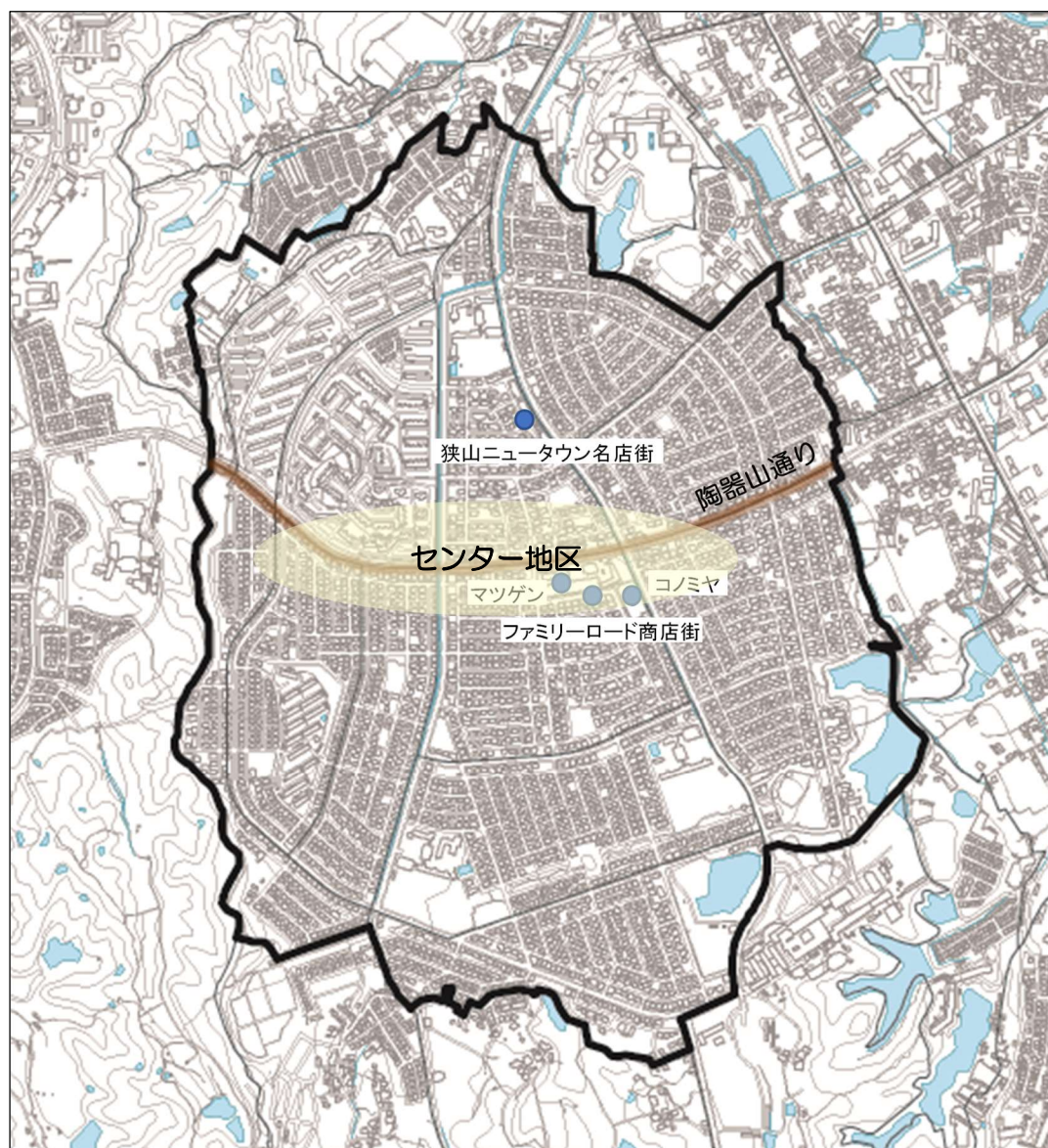
表 13 令和4年度の役割分担と取組目標

市	・事業者が開催する空き店舗活用に関する勉強会等に参加し、空き店舗活用についてのスキルアップに取り組む。 ・「にぎわい空間」の形成に向けて、空き店舗の実態調査を行うとともに、商業施設の立地動向等の土地利用需要について調査を行う。 ・住民等や事業者と連携し、空き店舗活用や公共空間確保の具体化に取り組む。 ・府営住宅ストック活用計画の進捗状況を把握する。
住民等	・事業者が開催する空き店舗活用に関する勉強会等に参加し、空き店舗活用についてのスキルアップに取り組む。 ・市や事業者と連携し、空き店舗活用の具体化等に取り組む。
事業者	・空き店舗活用の事例紹介や勉強会等を開催し、市、住民等のスキルアップに協力する。 ・具体的な事業化について市、住民等と連携して取り組む。
課題	①空き店舗活用資金の確保 起業支援やクラウドファンディング等、公民それぞれからの資金の確保が必要。 ②プロジェクトリーダーの育成 空き店舗活用には様々な専門知識等を有するプロジェクトリーダーが必要。 ③空き店舗活用等のマッチングの仕組みづくり

図 26 ロードマップ

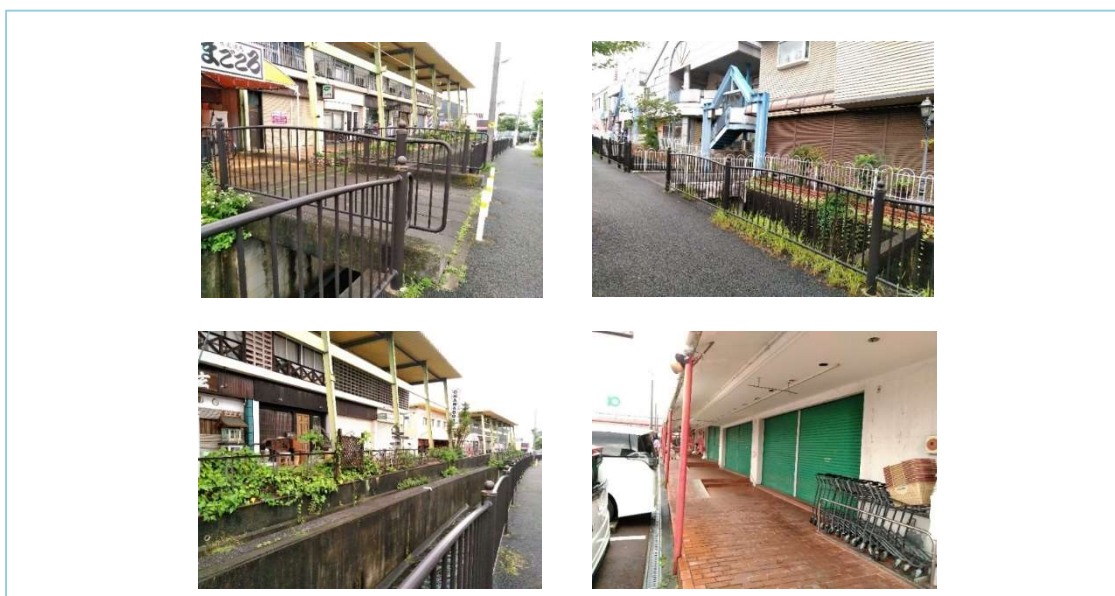
主体	年度	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024) ~
府		府営住宅ストック活用計画の改定	府営住宅ストック活用計画に基づく再編・整備等 (狭山住宅の着手時期は未定)		
市			土地利用需要調査 (仮称) 空き店舗実態調査		
住民等		空き店舗活用のスキルアップ・具体化			
事業者					

図 27 狭山ニュータウン内の商業施設位置



注) コミュニティセンターを中心とした陶器山通り周辺を「センター地区」と称します。

図 28 当地区の空き店舗の様子



シンボルプロジェクト4

地域包括ケアシステムの推進に寄与するスマートシニアライフ実証事業との連携

基本方針

- ◎ 地域包括ケアシステムの推進につながるよう、大阪府が公民連携事業として実施するスマートシニアライフ実証事業との連携に取り組みます。

表 14 令和4年度の役割分担と取組目標

市	- 地域包括支援センター（ニュータウンサテライト）に係る相談窓口としての相談支援体制の充実に取り組む。 - 大阪府が公民連携事業として行うスマートシニアライフ実証事業に協力する。
住民等	- 地域包括ケアシステム推進に協力する。 - 大阪府が公民連携事業として行うスマートシニアライフ実証事業に協力する。
事業者	- 地域包括ケアシステム推進に協力する。 - 大阪府が公民連携事業として行うスマートシニアライフ実証事業に協力する。
課題	大阪府が公民連携事業として行うスマートシニアライフ実証事業終了後の展開。

図 29 ロードマップ

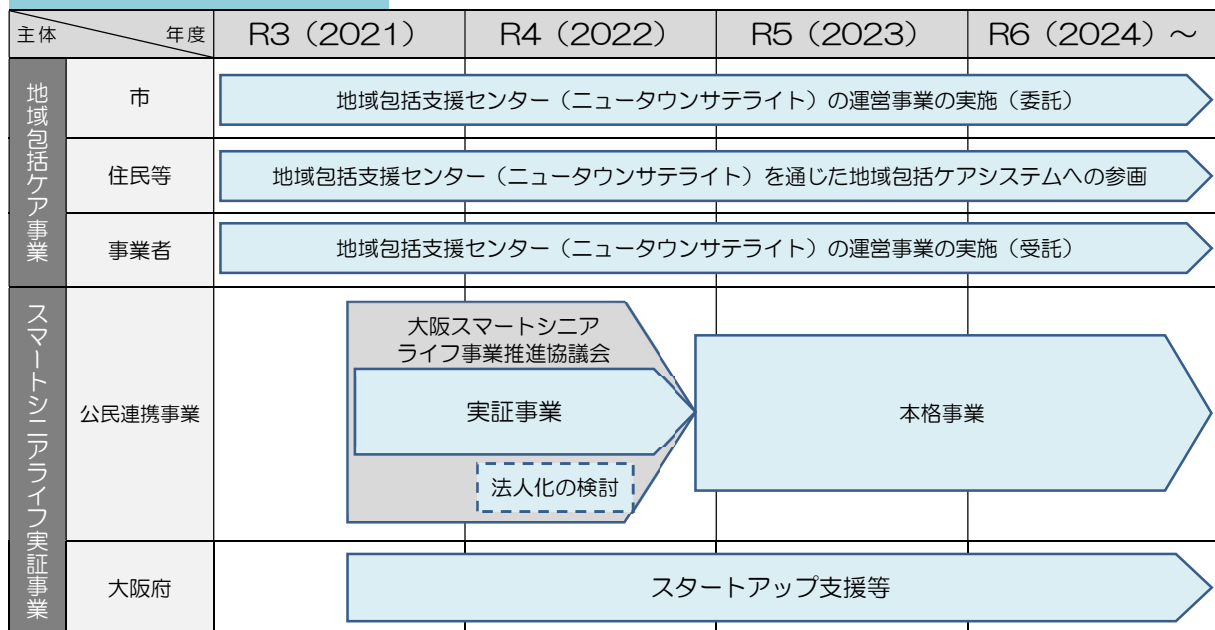


表 15 スマートシニアライフ実証事業で提供される予定のサービスの事例

	提供サービス	サービスの概要
基本 コンテンツ	AI 音声対話	「AI 対話」機能の搭載を通じた日々の話しかけ、安否・健康確認、服薬確認等の提供
暮らしの 支援	買い物代行	買い物代行サービスの提供
文化 教養 エンタメ	趣味の集い	コミュニティ形成支援、デイサービス、見守り等のコンテンツ提供
	カラオケ	高齢者向けのコンテンツの提供
ヘルスケア	日々の健康	食事管理、栄養診断サービスの提供
	お薬手帳	電子お薬手帳等の提供
	健康増進	フレイル予防に資する各種サービスコンテンツの提供
	リハビリテーション	フレイル予防コンテンツの提供

注) 上記は、スマートシニアライフ実証事業で提供が検討されているサービスの一部です。

IV-2 再生推進計画全体の体系とシンボルプロジェクトの位置づけ

4つの施策と27の取組項目

施策名	取組項目
施策1 生活環境の充実による再生 (継続した取組み)	・妊娠・出産包括支援事業等の充実 ・子育て中の親への支援 ・教育環境の整備 ・地域ぐるみの青少年健全育成 ・地域への愛着と誇りの醸成 ◎地域包括ケアシステムの構築(1-1) ・生きがいづくりや健康づくりの推進 ・安全・安心で、環境に配慮した住宅の普及 ・道路等の計画的な維持管理、バリアフリー化の推進 ◎ニーズの多様化に対応した公園の再整備と活用(1-2) ◎緑のネットワーク(回廊)の形成(1-3) ・自主的な防災活動の促進 ・防犯対策の充実強化
施策2 魅力発信と転入者等の呼び込みによる再生 (短期～中長期)	◎地区の魅力情報の発信(2-1) ・住み替えや転入希望者への支援 ・多様な住まいの供給・流通の促進 ・地区内の施設を活用したイベントの開催 ◎空き家対策の推進(2-2) ◎公共交通網の再整備(2-3)
施策3 新たなサービス機能の導入等にぎわいづくりによる再生(中長期)	◎地区内の空きスペースの有効活用(3-1) ・地域活動団体の交流の促進 ・周辺地域との交流の促進 ◎新たなサービス機能の誘導(3-2) ◎にぎわいのある商業・サービスゾーンの形成(3-3)
施策4 近畿大学病院等の移転後の敷地整備等による再生(中長期)	・近畿大学病院等の移転への対応 ・帝塚山学院大学狭山キャンパス跡地の開発協議等(新規) ・府営住宅ストック活用計画との連携(新規)

◎重点取組以外の取組項目は各主体により推進します。

施策名	重点取組以外の取組項目
生活環境の充実による再生 (継続した取組み)	・妊娠・出産包括支援事業等の充実 ・子育て中の親への支援 ・教育環境の整備 ・地域ぐるみの青少年健全育成 ・地域への愛着と誇りの醸成 ・生きがいづくりや健康づくりの推進 ・安全・安心で、環境に配慮した住宅の普及 ・道路等の計画的な維持管理、バリアフリー化の推進 ・自主的な防災活動の促進 ・防犯対策の充実強化
魅力発信と転入者等の呼び込みによる再生 (短期～中長期)	・住み替えや転入希望者への支援 ・多様な住まいの供給・流通の促進 ・地区内の施設を活用したイベントの開催
新たなサービス機能の導入等にぎわいづくりによる再生(中長期)	・地域活動団体の交流の促進 ・周辺地域との交流の促進
近畿大学病院等の移転後の敷地整備等による再生(中長期)	・近畿大学病院等の移転への対応 ・帝塚山学院大学狭山キャンパス跡地の開発協議等(新規) ・府営住宅ストック活用計画との連携(新規)

重点取組以外の取組項目

3主体の連携が特に重要な取組項目を重点取組とします。
(◎印の取組項目)

◎9つの重点取組を、戦略1(周知戦略)、戦略2(参画戦略)、戦略3(実感戦略)、戦略4(手順化戦略)により推進します。

9つの重点取組
1-1 地域包括ケアシステムの構築
1-2 ニーズの多様化に対応した公園の再整備と活用
1-3 緑のネットワーク(回廊)の形成
2-1 地区の魅力情報の発信
2-2 空き家対策の推進
2-3 公共交通網の再整備
3-1 地区内の空きスペースの有効活用
3-2 新たなサービス機能の誘導
3-3 にぎわいのある商業・サービスゾーンの形成

重点取組の中で戦略3(実感戦略)に基づき、4つのシンボルプロジェクトに取り組みます。

戦略3に基づく4つのシンボルプロジェクト
1. 地域ポータルサイトとの連携による魅力情報の発信強化
2. 市民協働・公民連携による公園・緑地の魅力向上活動の促進
3. 空きスペース等を活用したにぎわい空間づくり
4. 地域包括ケアシステムの推進に寄与するスマートシニアライフ実証事業との連携

連絡協議会

◎◎ 毎年度連絡協議会を開催します。
◎ 連絡協議会において、9つの重点取組や4つのシンボルプロジェクトを含め27の取組項目全体の進捗状況を把握し、必要な協議調整を行うこと等により、当地区の再生を推進します。